

大腸癌研究会プロジェクト研究

「直腸癌術後局所再発に対する治療の最適化に関する研究」委員会 第2回会議議事録

研究代表者 上原圭（日本医科大学付属病院 消化器外科）

日時 第99回大腸癌研究会・2023年7月6日(木)09:00～10:00

場所 都ホテル尼崎 第3会場 ※会場とWebのハイブリッド形式

出席者：

（現地参加）

相原一紀、安達智洋、池田正孝、井上透、上田和毅、植村守、鍵谷卓司、梶原由規、後藤健太郎、小森康司、小山文一、近藤寛史、齋藤修治、佐伯泰慎、佐村博範、塩見明生、白下英史、杉原健一、杉本起一、杉本晃祐、須藤剛、須並英二、高見澤康之、瀧山博年、田中正文、塚田祐一郎、中野大輔、肥田侯矢、深瀬正彦、福永洋介、藤井能嗣、藤田文彦、舛石俊樹、松田武、松橋延壽、間山裕二、水野良祐、虫明寛行、安井昌義、山内慎一、山岡雄祐、山城直嗣、山田岳史、山本聖一郎、山本大輔、横山雄一郎、吉敷智和、吉満政義、米村圭介

（Zoom参加）

有田智洋、池田正孝、稲田涼、太田竜、小倉淳司、河合雅也、川口清貴、川村幹雄、木内純、岸田貴喜、栗生宜明、小菅誠、清水浩紀、鈴木伸明、高橋広城、中島晋、廣純一郎、村田悠記、横山雄一郎、渡邊純

（事務局）

上原圭、山東雅紀

【五十音】

【敬称略】

【審議事項】

委員長 上原より、本研究の目的およびアンケート調査結果の概要を説明した。

事務局 山東より、前回会議での質問への回答、アンケート調査結果の詳細（CQの優先順位・画像収集）、プロトコルの変更点（研究期間、組み入れ・除外基準、）CRFのフローチャート、今後の予定について説明した。

質問や提案事項のまとめ

京都大学 肥田先生：CRFの枠組みについて。

→事務局：フローチャートにより共通およびA～Dのシートに分かれており、さらにエクセルシートにて細分化する工夫はしているが、集める項目が多いため記入しやすいものとは言えない。

国立がんセンター東病院 塚田先生：対象症例の期間と登録方法の詳細、CRFの入力について。

→事務局：1症例につき1エクセルファイルにて順次記載したものから送付いただく。ご指摘の通り、対象症例の前向き期間を含めると複雑化してしまうので、後向き期間のみへと変更することで対応する。

→事務局：遠隔転移の治療詳細については収集しないこと、CRFフローチャートにより様々なパターンに対応するよう作成している。

癌研有明病院 福長先生：症例登録期間について。

→委員長：完全な後向き研究へ変更するため、対象症例の締め切りを“研究承認日”へ変更する。

QST 病院 瀧山先生：局所再発の確定診断には時系列の画像が必要であるため、診断前の画像収集タイミングの増加について。

→事務局：容量と費用の問題あり。

→大阪大学 植村先生：全画像は困難であり、一つ前の画像に限定するのはいいかもしれない。CT、MRI、PET-CT、および各シリーズやフェーズなどについてあらかじめ設定すべきと考える。経時的变化を伴う再発の診断日をいつにするか要検討。

→QST病院 瀧山先生：PET-CTは解析に不向きである。

→静岡がんセンター 塩見先生：画像はポイントを絞ったほうが現実的である。本プロトコール内で規定された研究計画を行うべきである。

→浦添総合病院 佐村先生：診断時点の画像により根治が可能かどうか検討することも重要だが、より早期に診断することも重要であるため、画像収集を増やすことは付随プロジェクトとして今後の課題とすべきである。

→QST病院 瀧山先生：画像のシリーズ、フェーズは多ければ診断に有用ではあるが、再度検討する。

京都大学 肥田先生：パスワード管理者が単独であることについて

→事務局：追記を行う

本プロジェクト会議のまとめ

討議内容をもとに早急なプロトコールとCRFの改訂を行い、可能な限り早期に症例登録の開始を目指す。

文責 山東雅紀／上原圭